

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-285486

(43)公開日 平成8年(1996)11月1日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

F 28 F 3/08

F 25 J 5/00

識別記号

301

庁内整理番号

F I

F 28 F 3/08

F 25 J 5/00

技術表示箇所

301A

(21)出願番号

特願平7-117996

(22)出願日

平成7年(1995)4月18日

(71)出願人

000001199  
株式会社神戸製鋼所

兵庫県神戸市中央区臨浜町1丁目3番18号

(72)発明者

上野 孝一  
兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号

株式会社神戸製鋼所高砂製作所内

(72)発明者

三橋 顯一郎  
兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目3番1号

株式会社神戸製鋼所高砂製作所内

(74)代理人

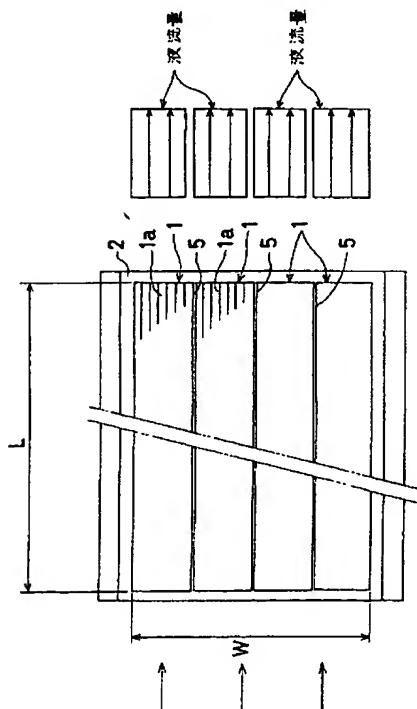
弁理士 梶 良之

(54)【発明の名称】 プレートフィン熱交換器

(57)【要約】

【目的】 プレートフィン熱交換器を水平方向に配置した場合でも、熱交換性能を低下させない。

【構成】 溝条部1aが形成された複数のフィン1を所定の流路長Lおよび流路幅Wとなるように配置し、これらフィン1と仕切板2とを交互に積層することによって、溝条部1aと仕切板2とで被冷却流体路および冷却媒体路を形成したものである。上記フィン1は、押し出し方向に上記溝条部1aが形成された押し出し形材を上記流路長Lの長さに切断することにより形成されている。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 溝条部が形成された複数のフィンを所定の流路長および流路幅となるように配置し、これらフィンと仕切板とを交互に積層することによって、上記溝条部と仕切板とで被冷却流体路および冷却媒体路を形成したプレートフィン熱交換器において、  
上記フィンは、押し出し方向に上記溝条部が形成された押し出し形材を上記流路長の長さに切断することにより形成されていることを特徴とするプレートフィン熱交換器。  
10

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、プレートフィンと仕切板とを交互に積層して被冷却流体路および冷却媒体路を形成したプレートフィン熱交換器に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 プレートフィン熱交換器は、図7に示すように、凹凸状の溝条部51a…が交互に連続して形成されたフィン51…と仕切板52…とを交互に積層させ、溝条部51a…に沿って流動する被冷却流体と冷却媒体とが仕切板52…を介して接触する構成にされている。

【0003】 従来、上記のフィン51は、図9に示すように、アルミロール53から帯状のアルミ板を引き出しながら成形機54に供給し、この成形機54によりアルミ板の幅方向に溝部を繰り返して形成することにより形成されるようになっている。従って、プレートフィン熱交換器は、フィン51のフィン幅しがアルミロール53の標準幅に一致したものとなるため、図8に示すように、被冷却流体路および冷却媒体路の流路長がフィン幅よりも長いと、複数枚のフィン51を突き合わせて所望の流路長を確保することが必要になっている。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、上記従来のプレートフィン熱交換器は、複数枚のフィン51を突き合わせるため、フィン51・51間に隙間55が発生することになる。この隙間55は、流路方向に対して垂直方向に形成されるため、プレートフィン熱交換器が鉛直方向に配置されている場合には、隙間55が水平方向に存在することによって、被冷却流体および冷却媒体が重力の影響を受けても隙間55を介して流動方向を変更することはない。

【0005】 ところが、プラントのレイアウトやプロセス上の要求によって、フィン51が水平方向および仕切板52が垂直方向となるようにプレートフィン熱交換器が水平配置された場合には、図10に示すように、フィン51間の隙間55が鉛直方向に存在することになるため、重力の影響を受けた被冷却流体および冷却媒体が隙間55を介して流動方向を変更して熱交換性能を低下させることになる。

【0006】 即ち、図11の天然ガス等の多成分系ガスを常温から-35℃まで冷却するプラントにおいて、プレートフィン熱交換器を水平配置した場合について説明すると、3~4段階の圧力/温度レベルのプロパン等の冷却媒体がそれぞれサーモサイホンとして用いられることによって、被冷却流体が重筒成分から順に分離し、流速を次第に低下させながら出口側において約60%が液体とされることになる。従って、図10に示すように、被冷却流体が重力の影響を受けると、被冷却流体の液体成分が隙間55から下方の溝条部51aに流れ落ちるため、上下方向に組成の不均一が発生し、例えば出口で混合した後の到達温度が設定温度より3℃程度上昇することもあり得る。これにより、冷却における温度のエントロピーカーブ(T-Qカーブ)が均一組成の場合と比較して大幅に異なることになるため、均一組成の場合よりも熱交換性能が低下することになる。

【0007】 従って、本発明は、プレートフィン熱交換器を水平方向に配置した場合でも、熱交換性能を低下させることがないプレートフィン熱交換器を提供しようとするものである。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 上記目的を解決するため、プレートフィン熱交換器は、溝条部が形成された複数のフィンを所定の流路長および流路幅となるように配置し、これらフィンと仕切板とを交互に積層することによって、上記溝条部と仕切板とで被冷却流体路および冷却媒体路を形成したものであり、下記の特徴を有している。

【0009】 即ち、上記フィンは、押し出し方向に上記溝条部が形成された押し出し形材を上記流路長の長さに切断することにより形成されていることを特徴としている。

## 【0010】

【作用】 上記の構成によれば、所定の流路長および流路幅となるようにフィンを配置する場合、フィンが押し出し形材を流路長の長さに切断して形成されたものであるため、フィンは、上記の流路幅となるように幅方向に突き合わせされることになる。従って、フィン間の突き合わせにより生じる隙間は、溝条部により決定される流路方向に対して平行にのみ形成されることになり、プレートフィン熱交換器が水平配置され、被冷却流体および冷却媒体が重力の影響を受けた場合でも、被冷却流体および冷却媒体は、各溝条部に沿ってのみ流動し、液体成分が隙間を介して下方のフィンに移動することができない。これにより、プレートフィン熱交換器の入口側から出口側にかけて組成が上下方向で異なることがないため、所定の熱交換性能を発揮することが可能になっている。

## 【0011】

【実施例】 本発明の一実施例を図1ないし図6を用いて説明する。本実施例に係るプレートフィン熱交換器は、

図1に示すように、フィン1と仕切板2とを密接状態にして交互に積層させ、被冷却流体と冷却媒体とが仕切板2を介して接触するように、隣接する仕切板2・2間に被冷却流体路と冷却媒体路とを交互に配置した構成にされている。

【0012】上記のフィン1は、図2(a)・(b)に示すように、押し出し方向に凹凸状の溝条部1a…を交互に連続して有した押し出し形材からなっており、各溝条部1a…は、頂部が仕切板2に密接されることにより被冷却流体路や冷却媒体路を独立して形成するようになっている。そして、このフィン1は、図1に示すように、プレートフィン熱交換器の流路長Lに一致するように切断された後、幅方向の端部同士が流路幅Wに一致するように突き合わされるようになっている。

【0013】尚、上記のフィン1は、凹凸状の溝条部1a…を交互に連続させた断面形状に形成されているが、被冷却流体路および冷却媒体路を形成できる断面形状であれば、上記の断面形状に限定されることは無い。即ち、フィン1は、押し出し加工により形成された押し出し形材からなっているため、図3(a)・(b)に示すように、溝条部1a…が一方面にのみ形成された断面形状にされていても良いし、図4(a)・(b)に示すように、溝条部1a…の開口部を平板により塞いで貫通穴とした断面形状にされていても良いし、図5(a)・(b)に示すように、溝条部1a…が両面に左右対象に形成された断面形状にされていても良い。

【0014】上記の構成において、プレートフィン熱交換器の動作について説明する。先ず、押し出し方向に溝条部1a…が形成された押し出し形材がプレートフィン熱交換器の流路長Lとなるように切断された後、このフィン1が流路幅Wとなるように幅方向に突き合わされて配置されることになる。そして、これらのフィン1…と仕切板2とが交互に積層されることによって、プレートフィン熱交換器が組み立てられることになる。従って、フィン1・1間の突き合わせにより生じる隙間は、溝条部1aにより決定される流路方向に対して平行にのみ形成されることになる。

【0015】上記の隙間5は、プレートフィン熱交換器が鉛直方向に配置された場合、重力方向に対して平行な鉛直方向に存在することになる。従って、被冷却流体および冷却媒体は、重力の影響を受けても隙間5を介して流動方向を変更することはない。

【0016】一方、プラントのレイアウトやプロセス上の要求によって、フィン1および仕切板2が水平方向となるようにプレートフィン熱交換器が水平配置された場合には、図1に示すように、フィン1・1間の隙間5が水平方向に存在することになる。この際、フィン1は、プレートフィン熱交換器の入口側から出口側まで連続して形成されていることから、フィン1の溝条部1aと仕切板2とで形成される被冷却流体路および冷却媒体路を

流動する被冷却流体および冷却媒体は、重力の影響を受けた場合でも、各溝条部1a…に沿ってのみ流動し、液体成分が隙間5を介して下方に位置するフィン1に移動する事がない。これにより、プレートフィン熱交換器の入口側から出口側にかけて組成が上下方向(各フィン1)で異なることがないため、所定の熱交換性能を発揮することが可能になっている。

【0017】尚、本実施例においては、押し出し加工により形成されたフィン1を用いてプレートフィン熱交換器が作成されるようになっているが、これに限定されることなく、例えば図6に示すように、アルミロールから形成されたフィン11・11同士を突き合わせ、連通された中空形状の継ぎ手部材12aや凹形状の継ぎ手部材12bをフィン11の溝条部1a…に嵌合させることによって、フィン11・11間を継ぎ手部材12a・12bにより接続した構成のプレートフィン熱交換器であっても良い。

【0018】

【発明の効果】本発明は、以上のように、溝条部が形成された複数のフィンを所定の流路長および流路幅となるように配置し、これらフィンと仕切板とを交互に積層することによって、上記溝条部と仕切板とで被冷却流体路および冷却媒体路を形成したものであり、上記フィンは、押し出し方向に上記溝条部が形成された押し出し形材を上記流路長の長さに切断することにより形成されている構成である。

【0019】これにより、フィン間の突き合わせにより生じる隙間が溝条部により決定される流路方向に対して平行にのみ形成されるため、プレートフィン熱交換器が水平配置され、被冷却流体および冷却媒体が重力の影響を受けた場合でも、これらの被冷却流体および冷却媒体の液体成分が隙間を介して下方のフィンに移動することがない。従って、プレートフィン熱交換器の入口側から出口側にかけて組成が上下方向で異なることがないため、所定の熱交換性能を発揮させることができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】フィンが配置された状態を示す説明図である。

【図2】フィンの一部を省略して示したものであり、(a)は平面図、(b)は正面図である。

【図3】フィンの一部を省略して示したものであり、(a)は平面図、(b)は正面図である。

【図4】フィンの一部を省略して示したものであり、(a)は平面図、(b)は正面図である。

【図5】フィンの一部を省略して示したものであり、(a)は平面図、(b)は正面図である。

【図6】継ぎ手部材をフィンに接続する状態を示す説明図である。

【図7】プレートフィン熱交換器の一部を省略して示す斜視図である。

5

【図8】プレートフィン熱交換器の一部を省略して示す分解斜視図である。

【図9】フィンの作成方法を示す説明図である。

【図10】フィンが配置された状態を示す説明図である。

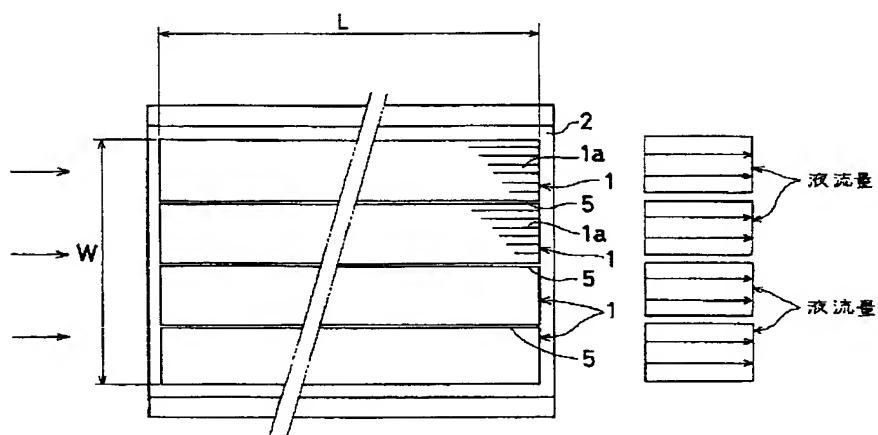
【図11】プレートフィン熱交換器の使用状態を示す説明図である。

【符号の説明】

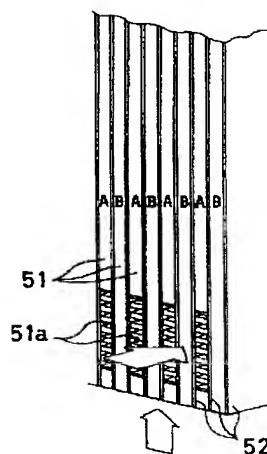
6

- 1 フィン
- 1a 溝条部
- 2 仕切板
- 5 隙間
- 11 フィン
- 12a 継ぎ手部材
- 12b 継ぎ手部材
- 15 隙間

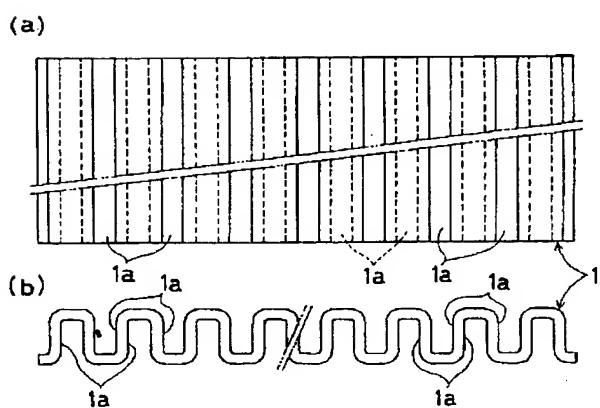
【図1】



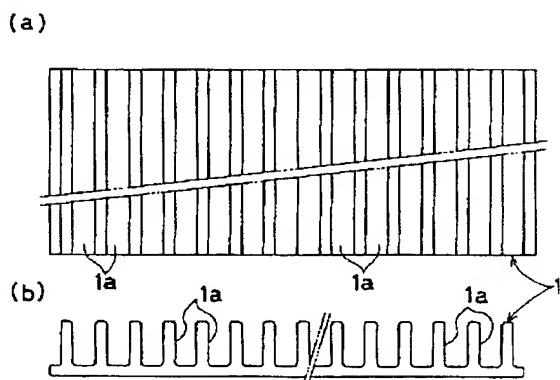
【図7】



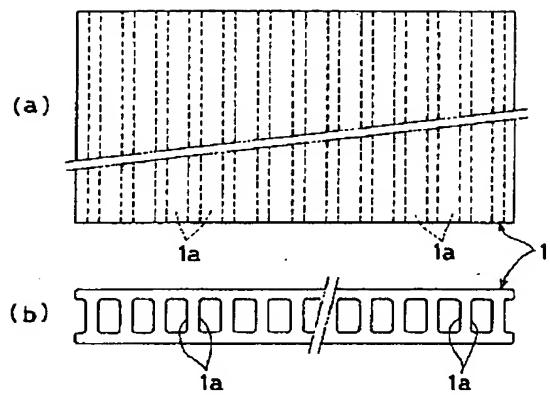
【図2】



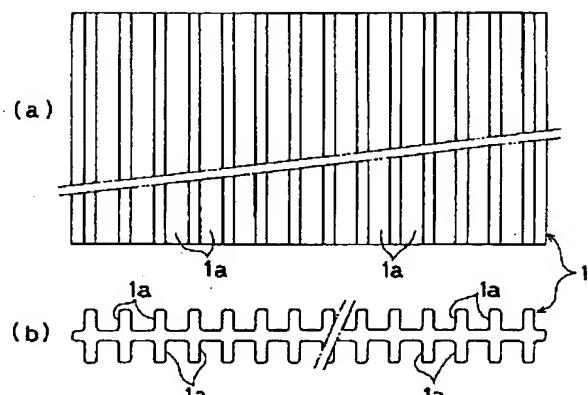
【図3】



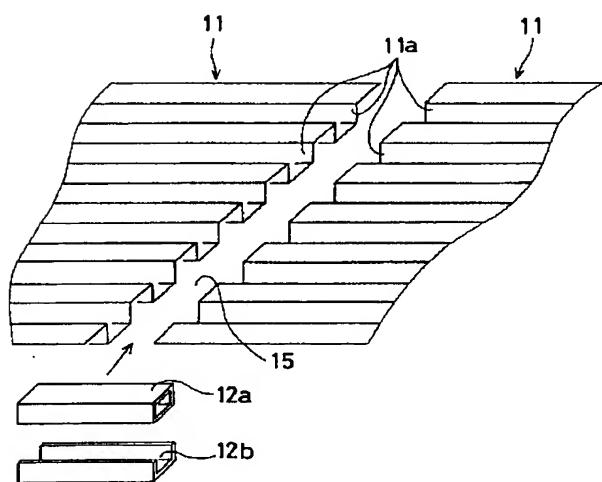
【図4】



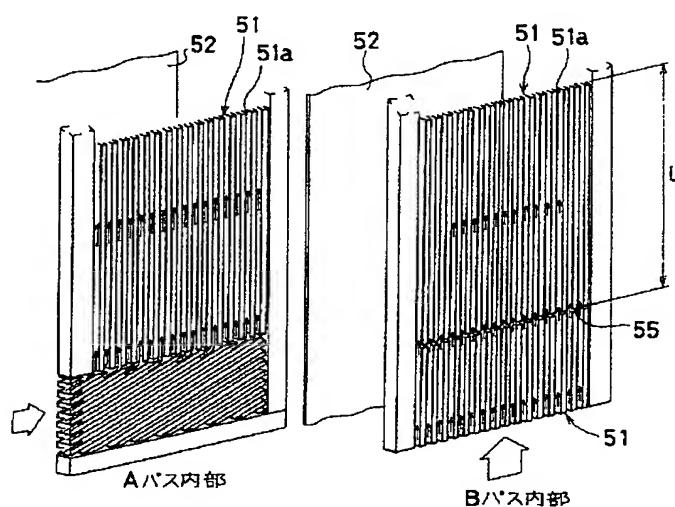
【図5】



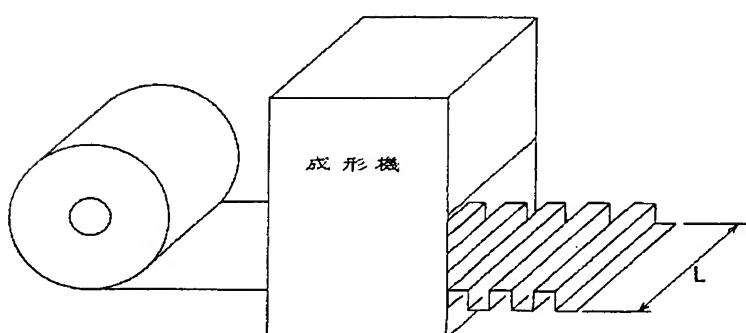
【図6】



【図8】

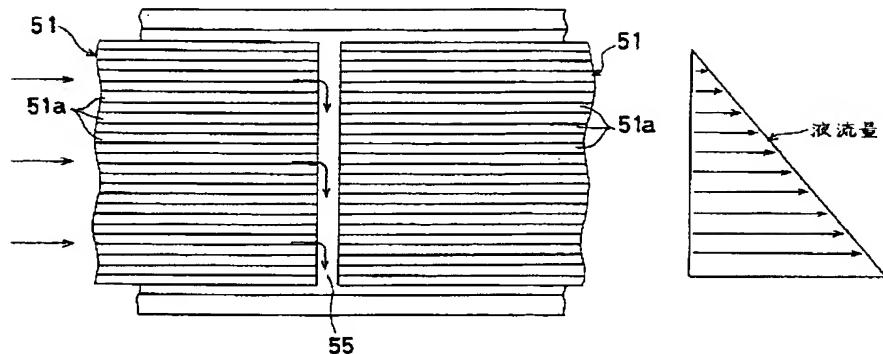


【図9】





【図10】



【図11】

